

(参考) 農薬の作用機構分類コードについて

農薬による病虫害防除を行う場合、薬剤抵抗性を発達させないために、系統の異なる農薬をローテーションで使用する必要があります。ここ数年の動きとして、世界の代表的な農業化学品製造会社により設立されたクロップライフ・インターナショナル (CropLife International ; CLI、通称「世界農薬工業連盟」) の対策委員会による農薬の作用機構分類コードが日本でも利用されてきています。

農薬の作用機構分類コード (番号と記号) については、CLI の対策委員会のうち、殺菌剤は殺菌剤耐性菌対策委員会 (Fungicide Resistance Action Committee ; FRAC)、殺虫剤は殺虫剤抵抗性対策委員会 (Insecticide Resistance Action Committee ; IRAC)、除草剤は除草剤抵抗性対策委員会 (Herbicide Resistance Action Committee ; HRAC) が作成しています。

コードの異なる農薬を使用することで、同一系統の農薬の連用を防ぐことができます。詳細については、下記ウェブページを御参照ください。

○クロップライフジャパン ウェブページ「農薬の作用機構分類」

<https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>